



第 146 号

令和 7 年

6 月 2 日発行

蒼雲

【発行】

島根県立三刀屋高等学校

〒690-2404

雲南市三刀屋町三刀屋 912-2

TEL : 0854-45-2721

FAX : 0854-45-5630

題字：川端千夏（1 年）

このたび、第三十七代校長を拝命しました、岡秀樹です。どうぞよろしくお願いいたします。地域の皆さまには、平素から本校教育活動に格別のご理解・ご配慮をいただいております、心より感謝申し上げます。

さて、社会人に求められる能力として一般的によく言われるのが「コミュニケーション能力」であるということをご存じの方も多いと思います。さまざまな統計資料が公表されていますが、ここ十年以上の長きにわたって求められる能力の筆頭として認知されていることは間違いなさそうです。

ただ、その一方で「コミュニケーション能力」がそもそもどんな力なのか、ということについての解釈にはさまざまな考え方があり、一概にどれが正解ということはいえません。とはいえ「もつとも求められる能力」であることは間違いのない事実ですので、私はことあるごとに生徒に対して以下のような話をしてきました。

「コミュニケーション」って何だろう。おそらく「自分からどんな話しかけて人間関係を作っていく力」というのが、多くの生徒の皆さんのイメージではないだろうか。要するに自分から積極的に「発信」していくイメー



校長 岡 秀 樹

ジだ。確かに、社会に出て人間関係が大事なじゃないってことはあり得ない。だから、人間関係という部分は正解である。しかし、その関係性はどうやって作るのか？ 実は社会に出ると様々な年代の人たちと関わりながら話を聞くような場面が結構ある。社交性や自己主張を発揮する場面よりもずっと多いというのが私の印象である。つまり、聞く方のコミュニケーションが主体となるのだから、「コミュニケーション」とは「発信」よりもむしろ「受信」が大事ということになる。相手のことをきちんと受け入れよう、大切にしようと思わないと、しっかりとした「受信」にはならない。この気持ちこそが「コミュニケーション」の本質だと私は考えている。自分は引込み思案だ、口下手でコミュニケーションが低い、などと不安に思っている人もいると思うが、同世代で構成されている学校と、さまざまな年代の人が混在する社会では状況は全く異なる。「受信」する気持ちさえ持っていれば十分に人間関係は作れる。安心しなさい。

まあ、だいたいこんな流れです。さて、この春は島根県の教育にとって大きな節目となりました。というのも、「島

根創生計画」が第2期に入り、これに伴って「島根県教育大綱」「しまね教育振興ビジョン」「県立高校魅力化ビジョン」といった大きな教育施策も軒並み新たなプランの段階に入ったからです。そして、これらの施策のすべてを象徴する言葉が「誰もが、誰かの、たからもの」というキーワードです。小学生にも十分理解できる平易な表現になっていますが、込められた意味は大変深いものがあります。

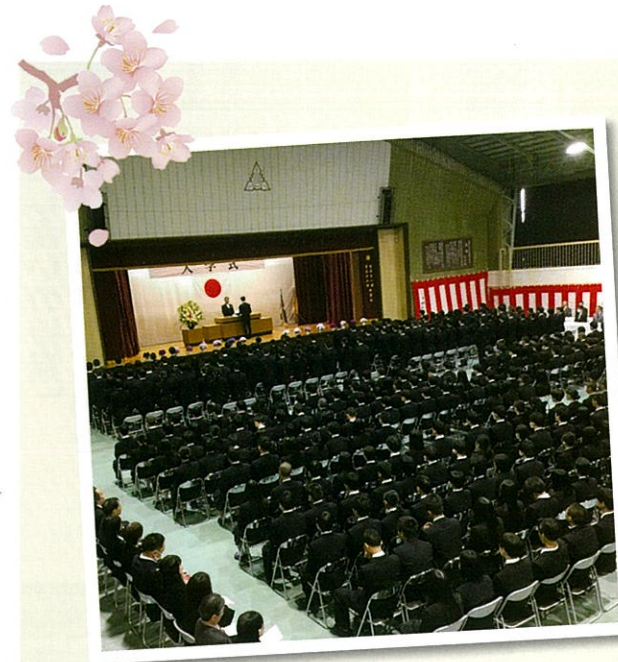
この言葉は「お互いの個性や多様性を認め合い、励まし合い、支え合いながら、子どもたち自身が、『自分が誰かのたからもの』であり、『誰もが自分のたからもの』であると思えるような教育を展開します」というように説明されています。

このキーワードは人と人とのかわり方、つまりコミュニケーションのあり方を示すと同時に、現在の学校教育においてコミュニケーションがいかに大切なものであるかということも伝えていることになりました。

今年度も探究学習などで本校生徒が地域の皆さまのもとにお邪魔することがあると思います。至らぬ点も多いでしょうが、皆さまの思いをしっかりと受け止める「受信マインド」だけはきちんと身につけて出掛けていくように指導します。良いコミュニケーションがはかれますよう、ご理解・ご協力のほど、どうかよろしくお願いいたします。

入学式

4月9日（水）「令和7年度第78回入学式」を挙行了しました。県内14校、県外5校の計19校の中学校を卒業した130名の新入生を迎えました。入学許可の後、校長から勉強、部活動、探究、この3つを柱として努力して欲しいなどの話がありました。その後、新入生代表の宣誓では、新しい生活に不安を抱きながらも、三刀屋高校生として新しい仲間と勉強や部活動に励み、互いに高めあっていきたいという決意が述べられました。入退場や校歌では、吹奏楽部の演奏も行われ、華やかな式となりました。また、多くの来賓や保護者、在校生の同席により、緊張感の中にも新入生を温かく歓迎する雰囲気のある入学式となりました。



教室が整備されました



三刀屋高校は、令和6年度に「高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）」と「総合的な探究の時間」の質向上を図るための実践研究」という2つの文部科学省事業の指定を受け、取組を進めてきました。前者は情報・数学等の教育を重視するカリキュラムを実施し、かつICTを活用した探究的な学びを強化するために必要な環境整備を行う事業であり、後者は「総合的な探究の時間」の取組を工夫して生徒に主体的に社会参加する意欲・態度を育成することをねらった事業です。本校では、従来から探究学習に力を入れてきましたが、これらの事業の指定を受け、いっそう探究学習を推進していきます。

このうち、「DXハイスクール」では、さまざまな機器を配備し、生徒の主体的な学びを進める拠点としての教室整備が求められており、本校では旧「L教室」を新たに「DXルーム」として整備しました。この教室では、ハイスベックパソコンのほか、3Dプリンタやドローン、レーザーカッター、ガジェットブリタ、VRゴーグル、ハイスピードカメラなどの機器が配備されており、探究学習のほか、各教科の学習等で活用していきます。

また、三刀屋高校一〇〇周年記念事業として、総合学科棟の旧「小講義室5・6」が「探究ルーム」として整備されました。ここでは、教科学習や探究学習において生徒が協働的な学びを進められるよう、キャスター式の机・椅子やホワイトボード、さらに遠隔機材が配備されました。これらの教室を拠点として、探究的な学びをさらに進化させていきます。

探究ルーム



DXルーム

